

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 寝屋川市立第十中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 572 - 0003
大阪府寝屋川市成田南町 20 番 7 号

E-mail dai10@school.kyoiku.city.neyagawa.osaka.jp
Website http://www2.city.neyagawa.osaka.jp/school/j/dai10/

幼児児童生徒数 男子 213 名 女子 212 名 合計 425 名
幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は「ホールスクールアプローチで育む 自分を大切に ひとを大切に 未来を大切にできる生徒の育成」を研究テーマに、自分たちの地元に「アクション」を起こせる生徒を育成することを目標とし、「総合的な学習の時間」を軸に ESD の実践を行った。実践を通して、「多面的、総合的に考える力」、「他者と協力する態度」、「進んで参加する態度」の 3 つの資質・能力の向上を目標とした。

具体的な取組として、主に、①「総合的な学習の時間」を軸とした ESD の取組、②ESD カレンダーの作成があげられる。

① 「総合的な学習の時間」を軸とした ESD の取組

ア. 第 1 学年の取組

SDGs 11「住み続けられる街づくり」を重点目標にし、地元の持続的な発展のためにはどうすべきかをフィールドワークや調べ学習を通じて考えた。初めに、グループで「100 年後も残していきたいもの」「これから先、変えていきたいもの」を KJ 法で出し合い、まとめの発表を行った。さらに校区をフィールドワークし、壁新聞を作り、専門家や地域の人を招き、ポスターセッションを行い交流した。最後に学んだことを基に、100 年後の寝屋川の未来をイメージした劇を発表した。

イ. 第 2 学年の取組

職業体験に向けた学習活動は SDGs 8「働きがいも経済成長も」の視点で行った。1 学期には、自分の職業体験先の紹介と体験のまとめを紹介する新聞を完成させた。

テーマをさらに深めるため、生徒による企画委員会を立ち上げ、SDGsの中からさらに飢餓、まちづくり、パートナーシップを選び、自分たちで劇の台本を作成し、自分たちの身の回りにおけるESDに関する発表を行った。

ウ. 第3学年の取組

3年間の集大成として、SDGs 16「自分たちが世界平和のためにできること」の視点で取組を行った。修学旅行では松代大本営の地下壕の見学を行った。また現地の語り部さんに当時の様子や実際の写真などを提示していただき、理解を深めた。これらの学習などをもとに、学習発表会では、戦時中の悲惨さを伝える発表を行った

② ESDカレンダー作成

「総合的な学習の時間」を軸に、ESD推進のためのカレンダーを作成した。「総合的な学習の時間」の指導計画を見直し、本校の目指す生徒像に照らし合わせ、どのESDのテーマ、SDGs、そして資質・能力を向上すべきかを整理した。また他教科等の単元をカテゴリー（例えば「環境」、「人権」など）ごとに分類し、「総合的な学習の時間」と他教科等との関連付けを行い、ESDの全体像を可視化した。



① 1年の発表



① 2年の発表



① 3年の発表

第1学年 ESDカレンダー

ESDと関わる項目 <緑…環境(A) 桃…平和教育(B) 橙…世界遺産(C) 青…多文化共生(D) 茶…地域理解(E) 紫…人権・福祉(F) 黄…キャリア(G) 該当なし…黒>
身につけさせたい資質・能力 <多面的、総合的に考える力…(多) 他者と協力する態度…(共) 進んで参加する態度…(進)>

月	題材	社会	環境	歴史	芸術	言語	体育	音楽	美術	情報	職業	家庭	保健	道徳	総合
4	扉を開けよう(多)			植物のくしくしとなかま: 葉のつくりとはたらき(多)(共)(進)		我がまちの「歴史」(多)	クロッキー(共)(進)	鳥居のつくり(多)	鳥居のつくり(多)	鳥居のつくり(多)	鳥居のつくり(多)	鳥居のつくり(多)	鳥居のつくり(多)	鳥居のつくり(多)	鳥居のつくり(多)
5	道徳のくしくしとなかま(共)(進)			植物のくしくしとなかま: 葉と茎とはつづきとつたえ(多)(共)(進)	Program 2: アリがからるの製作(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	クロッキー(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)
6	道徳のくしくしとなかま(多)			植物のくしくしとなかま: 葉と茎とはつづきとつたえ(多)(共)(進)	Program 3: クワがまがやってくる(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	クロッキー(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)
7	道徳のくしくしとなかま(多)			植物のくしくしとなかま: 葉と茎とはつづきとつたえ(多)(共)(進)	Program 4: リサイクル製作(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	クロッキー(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)
8	道徳のくしくしとなかま(多)			植物のくしくしとなかま: 葉と茎とはつづきとつたえ(多)(共)(進)	Program 5: 自由のこころ(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	クロッキー(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)
9	道徳のくしくしとなかま(多)			植物のくしくしとなかま: 葉と茎とはつづきとつたえ(多)(共)(進)	Program 6: 道徳のくしくしとなかま(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	クロッキー(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)
10	道徳のくしくしとなかま(多)			植物のくしくしとなかま: 葉と茎とはつづきとつたえ(多)(共)(進)	Program 7: The Wonderful Ocean(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	クロッキー(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)
11	道徳のくしくしとなかま(多)			植物のくしくしとなかま: 葉と茎とはつづきとつたえ(多)(共)(進)	Program 8: Origami(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	クロッキー(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)
12	道徳のくしくしとなかま(多)			植物のくしくしとなかま: 葉と茎とはつづきとつたえ(多)(共)(進)	Program 9: A New Year's Visit(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	クロッキー(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)
1	道徳のくしくしとなかま(多)			植物のくしくしとなかま: 葉と茎とはつづきとつたえ(多)(共)(進)	Program 10: Mike's Visit(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	クロッキー(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)
2	道徳のくしくしとなかま(多)			植物のくしくしとなかま: 葉と茎とはつづきとつたえ(多)(共)(進)	Program 11: Graham Baba and Her Friends On a Ship(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	クロッキー(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)
3	道徳のくしくしとなかま(多)			植物のくしくしとなかま: 葉と茎とはつづきとつたえ(多)(共)(進)	Program 12: 道徳のくしくしとなかま(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	クロッキー(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)	道徳「道徳のくしくしとなかま」(多)(共)(進)

② ESDカレンダー(1年)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 地域行事)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<p>【パンフレット】 「持続可能な開発目標」を伝える先生のためのガイド (UNICEF) 「持続可能な開発のための教育 (ESD)」はこれからの世界の合言葉 みんなで取り組む ESD! (国立教育政策研究所)</p> <p>【書籍】 田中・三宅・湯本 (2016) 『SDGs と開発教育』学文社 手島 (2017) 『学校発・ESD の学び』教育出版 永田・曾我 (2017) 『新たな時代の ESD : サステイナブルな学校を作ろう』明石書店 日本国際理解教育学会 (2015) 『国際理解教育ハンドブック』明石書店</p> <p>【その他】 ESD 先進校の研究取組発表資料</p>
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

本校のESDをホールスクール、教科横断的かつ体系的に取り組むために、ESDカレンダーを作成した。各教科の単元でESDに関連する内容の単元を整理し、各学年の「総合的な学習の時間」で扱うテーマと関連付けさせ、本校のESDの全体像を教職員間で確認した。また分類する際、本校が重点的に身に付けさせたい3つの資質・能力（①多面的、総合的に考える力 ②他者と協力する態度 ③進んで参加する態度）も記載し、全教科でそれらの資質・能力の育成に取り組むようにした。

また生徒の資質・能力の変容を捉えるべくルーブリックを作成した。各学期に行うアウトプット活動にて、上記の3つの観点を、それぞれA・B・Cの3段階で生徒の達成度を評価した。各単元、学期の生徒の目指すべき像として「総合的な学習の時間」のような複数の教員で取り組む活動においては、目的と目標の共通理解を図れるという点で有効であった。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

本校でESDを組織的かつ継続的に取り組むために、本年度よりESD推進委員会を立ち上げた。毎月、各学年のESDの取組内容の確認、研修の企画や立案、先進校や研究会で学んだことの共有、またこれからの本校のESD実践の指針や方針に関して共通認識する場として機能している。そこで議論されたことを学年や分掌で話し合い、役割分担を明確にし、教職員全体でESDに取り組めるようにした。

また教職員だけでなく、生徒の主體的なESD活動を推進すべく、生徒会を中心に、各生徒委員会で、自分たちで取り組める活動を考え、グリーンカーテン、ボトルキャップ回収など生徒が中心で取り組めるよう体制作りを行った。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

「総合的な学習の時間」のESD実践の中で、身に付けさせたい3つの資質・能力に関するルーブリックを単元ごとに作成した。それらを元に、生徒の自己評価アンケートを作成、実施、分析し、それぞれのESD実践が、それらの資質・能力の伸長に対して効果的であるかを検証した。また国立教育政策研究所が作成したESDの効果に関するアンケートを毎学期実施し、それから得られたデータを改善に活用している。

外部評価としては、国立教育政策研究所の遠山一郎調査官に2度、同志社女子大学藤原孝章教授に3度、本校の取組の様子を視察していただき、実践への評価と今後の助言をいただいた。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本年度より2年間、本校は国立教育政策研究所の研究指定校を受けている。ESDの取組の成果や課題を校内だけでなく、他のユネスコスクールや、ESD研究指定校と、定期的に情報交換や中間報告会の場を設け、本校の成果と課題を他校と共有している。

また校区内の小学校との三校合同研修においてESDをテーマとした研修を実施し、本校のみならず校区全体でESDを取り組めるように情報を発信している。

ESD実践の発信方法として、保護者にはPTA総会・運営委員会、学校便り等を通じて取組内容を定期的に発信している。またより広く成果を発信すべく、リーフレットの作成やホームページで取組の内容やESDで目指す指導方針を発信している。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

本校のESDの軸となる取組はSDGs11「住み続けられる街づくり」であるように、自分の身の回りの地域に還元できる生徒の育成を目指している。第1学年の地域調べでは、寝屋川市立中央図書館館長や地域の方を招き、取組内容に関する第三者的視点で指導、講評いただいた。

それらに加え、「寝屋川自然を守る会」や社明などの地域団体と協力し、生徒の地域行事での取組を充実させている。

また本校の取組をより深化させるべく、同志社女子大学藤原孝章教授に定期的に来校していただいたり、近畿ESDコンソーシアムを通じて奈良教育大学中澤准教授に指導していただいたり、外部機関との連携を通じて、ESDのネットワークを広げている。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

本校のESDの活動を推進する一環として、日本ESD学会近畿支部大会や、ESD先進校での研究発表会へ積極的に参加し、他校の先駆的な取組を取り入れようとしている。またその場で、教職員同士で意見交換し、ESDの取組のネットワーク構築に励んでいる。また海外のユネスコスクールとの交流にておいては、毎年、ACCU主催の日本教職員派遣プログラムに本校職員が参加し、韓国や中国のユネスコスクールの職員間で交流している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

本校の行事や教育活動の振り返りを教職員間で ESD という共通した枠組みで捉えなおすことができ、PDCA サイクルが構築できたことは、大きな意義があると考えます。

また、ESD カレンダーを作成するにあたって、カリキュラム・マネジメントの観点からも、学校全体の学習活動の全体像を可視化し、各教科等との関連性を明示的に示すことができ、有益であると考えます。またどの学年がどの時期に何を学習しているかを横断的に知ることで、他教科と連携した取組も期待できる。それらに加え、複数教科が同時期に ESD に関連した内容の授業を行うことで、生徒にも ESD への関心を高めさせ、その重要性を認識させることができるものと考えます。

また教職員のみならず、生徒間の ESD の認知度が高くなり、生徒会を中心に ESD の広報・啓発活動を自発的に取り組むようになったことが大きな成果としてあげられる。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

【より機能的な ESD カレンダーの作成】

本校の作成した ESD カレンダーのカテゴリーが「環境教育」や「人権・福祉教育」などと比較的大きな枠組みでとらえているゆえに、その単元が何をゴールに、かつ具体的にどう ESD と関連しているかが不明確である。ESD に関連する各教科の単元目標を明記すると共に、ESD カレンダーを SDGs のようにより具体性のあるものに変更し、より活用しやすい ESD カレンダーの作成を目指す。

【多角的な評価方法の実施】

他教科で学んだことを「総合的な学習の時間」内の ESD の学習に活用する際、共通のワークシートや枠組みで作成し、それをファイルに綴じるなど、実際に形として残るポートフォリオを作成する必要がある。生徒のアンケート結果分析による量的変容の分析だけでなく、通時的に資質・能力の変容を読み取れる質的変容を評価する方法を確立をしていきたい。

【SDGs を活用した学年間の縦のつながりを意識したカリキュラム作り】

同学年内の教科の取組の関連性と共に、3年間を見通してより大きなスパイラルで「総合的な学習の時間」において ESD を推進するにあたって、3年間のルーブリックを作成し、その相互性を検討し、カリキュラムの精度を上げていく必要がある。また各教科等で SDGs を活用した授業を実践して行きたい。